

第68回全国レクリエーション大会2014福島 うつくしまふくしま体験ひろば開催

期 日：平成26年9月20日（土）～21日（日）

場 所：福島駅前特設会場、街なかひろば、福島市A O Z ほか

9月の秋晴れの中、第68回全国レクリエーション大会2014福島が福島市を中心として、県内18市町村において、盛大に開催されました。

うつくしま総合型スポーツクラブユニオンは、福島県レクリエーション協会、福島市レクリエーション協会及び参加団体と協議を重ねながら、福島駅前特設会場、街なかひろば、A O Zを中心に県ユニオン自主事業を兼ねて「うつくしまふくしま体験ひろば」に参画しました。

福島駅前特設会場では、会津ユニオンによるエルゴメーターチャレンジランキング、バルーンアート、双葉ユニオンによる体力測定&健康体操教室、南会津ユニオンによるサンクラブ幼児体力測定体験、相馬ユニオンによるチアリーディング体験教室が開催され、街なかひろばでは、県中ユニオンによる三輪バギー競争が行われました。また、A O Zでは、県北ユニオンによるチャレンジGボール体験教室、県南ユニオンによる体幹体操教室、いわきユニオンによるHIPHOPダンス教室が開催されました。

県ユニオンとしては、生涯スポーツに係る今回のような大きいイベントの経験がないことから、全国レクの実行委員会と決定した事項を県ユニオン常任理事会や地区代表による自主事業開催準備会で説明したり、各地区ユニオンで研修会を開催したりして本番に臨みました。

当日は、橋南スポーツクラブの支援金を活用して作成したカーブバナーを立て、各地区ユニオンの結束力を高めながら参加者へ積極的に声をかけるなど、すばらしい運営がなされました。参加された方々は、説明を聞いて真剣に挑戦したり、ユニオンの方々と会話しながら活動したりするなど普段経験できないような種目や運動に楽しく取り組む姿が見られました。特に、小学生以下の子どもたちへは、今後も運動に親しんでもらおうとひかわスポーツ夢クラブ（島根県）からの支援金で購入したなわとびを景品として配布しました。

今回開設したユニオンの体験ひろばでは、2日間で延べ1517人の方々が種目の体験を行いました。多くの方に種目の紹介だけでなく総合型スポーツクラブを広める機会ともなりました。少しのアクシデントはありましたが、それぞれが臨機応変に対応し、2日間無事に終了することができました。全国レクリエーションに関わった各地区ユニオンの皆様大変お疲れ様でした。

福島駅前特設会場



バルーンアートの様子です。楽しく作品づくりをしました。



エルゴメーターの様子です。大人も子どももみんな息が上がるくらい必死で漕ぎました。国体を目指せるくらいの距離を出した方もいたそうです。



健康体操教室の様子です。足のマッサージや血圧測定など高齢者の方が多く訪れました。



サンマクラブ幼児体力測定の様子です。ボールキャッチや腕支持などの動きにたくさんの幼児が挑戦しました。



閉会行事でのチアリーディングの様子です。次年度開催の長野県へ向けてエールを送りました。元気いっぱいのダンスを披露してくれました。

街なかひろば会場



三輪バギーの様子です。子どもたちが、タイムを競いました。安全面に留意した運営でした。



キビタンと一緒に！
はいポーズ。

閉会行事では、長野
県PRキャラクター
「アルクマ」も登場。



AOZ会場



Gボールチャレンジの様子です。カードにかかっている動きができるように、バランスを取ったり、スタッフに支えてもらったりして挑戦しました。



体幹体操教室の様
子です。バランスを
保ちながらの姿勢保
持やストレッチを行
いました。



HIPHOPダンス体験
の様子です。基本ス
テップや親子での体
操など楽しく体を動
かしました。



ひかわスポーツ夢クラブ
からの支援金で購入し
たなわとびです。

スタンプラリーにもたくさ
んの方が参加してくださ
いました。



平成26年度第2回フォローアップセミナー

- 1 期 日 平成26年10月5日（日）
- 2 会 場 ユラックス熱海
- 3 参加者 18名

スポーツクラブ間相互の情報交換やクラブ運営に関する研修を通してクラブ関係者のスキルアップを図り、今後のクラブの円滑な運営に資することを目的として開催されました。

○セミナーⅠ「総合型スポーツクラブの20年を振り返り、今後の総合型スポーツクラブのあり方を考える」

講師 黒須 充氏（順天堂大学教授）



住民主体の地域スポーツクラブにおいても、将来を見据えたプランが必要であり、変革の方向性を探るプロセスについての手順や方法について説明がありました。

○セミナーⅡ「今後の総合型スポーツクラブのめざす姿とは」

講師 伊倉晶子氏（公益財団法人埼玉県体育協会クラブアドバイザー）



自分達がめざす総合型地域スポーツクラブのスタイルがタイプ別に提示された。今まで漠然としていた、自分達のクラブの方向性がはっきりと見えてくるような話でした。

○セミナーⅢ「やる気にさせる言葉の力～ペップトーク～」

講師 岩崎由純氏（トレーナーズスクエア株式会社代表取締役）



言葉にまつわる様々なエピソードから言葉の持つ力を実感させられるだけではなく、人と人とのつながりを大切にするという意味においても考えさせられる内容でした。岩崎氏のペースに引き込まれ、笑いあり感動ありの講義でした。

クラブアドバイザーレポート vol. 2

うつくしま広域スポーツセンター クラブアドバイザー 板垣晶行

今回のクラブアドバイザーレポートはクラブマネジメントの基本となる「財務分析」について取り上げたいと思います。

I、はじめに

前回紹介した「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」では、総合型クラブ自身が自立・自律した運営や活動を推進するため取り組むべき7つの項目が提示され、クラブが地域コミュニティの核となる組織への発展が期待されています。

特にクラブ育成の基本方針として①活動のあり方、②組織のあり方、③活動財源の確保の3項目を挙げていますが、これらのクラブ事業の実態は面白いもので「収支計算書」を分析することでその概要が見えてきます。

Ⅱ、クラブ育成の基本理念は「地域づくり」クラブ育成の基本理念は「地域づくり」

前回でも確認しましたが、育成プラン2013の基本理念は「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」で、具体的には地域住民の多様なニーズを包含し、多様な活動が可能となる地域に密着したスポーツクラブの普及・定着により、豊かなスポーツ文化を身近に享受できる環境を整え、「**住民の自発的、主体的、自治的なスポーツの推進と地域づくりの機能を有する総合型クラブ**」を育成・支援する。とされ、この取り組みによりスポーツの推進と地域づくりの相乗効果と好循環が期待されています。

Ⅲ、現場クラブに求められる「多様な財源」の確保

このように総合型クラブの使命は地域づくりであり、そのためには事業の継続が求められ、クラブ事業の継続には持続可能な事業のしくみづくりと多様な財源の確保が重要となります。

元来、総合型クラブは「自主事業」でありますから、クラブ事業の基盤には収益のあがる事業の確保があるべきです。国内における総合型クラブの創設期では、その育成方針により多額の財政支援があったかもしれませんが、それはクラブ事業の自立に向けた基盤強化策で一時的なカンフル剤であります。ましてや行政や toto などの金銭的助成は年度予算であり有期なので継続的な補償はありません。

自立・自律に向けた多様な財源の確保には、クラブ事業の収益性と公益性が重要です。

「収益性」とはクラブが自由に活用できる自主財源の確保であり、これには会費や事業収入、賛助会費や協賛金などが該当し、事業収入に占める自主財源率の高揚はクラブ事業の安定的な継続に寄与します。

「公益性」とは地域におけるクラブの存在価値で、行政と住民の中間支援団体として地域貢献するその対価としての事業収入です。すなわち、地域課題を解決する各種受託事業であり、公共施設の運営管理や指定管理業務などの事業収入がこれに該当します。

また、クラブ事業の基盤強化策（一時的なカンフル剤）として、行政の補助金や toto の助成金を有効活用することも含め、**クラブ事業の継続にはこのような多様な財源をバランス良く確保することが重要なポイントとなります。**

IV、財務分析は「事業別・部門別」に作成

このようにクラブ事業の継続には多様な財源の確保が重要で、財務管理には「事業別・部門別・収支計算書」の作成が有効となります。

具体的には、事業の種類を「自主事業、受託事業、補助事業」などに分類し、さらにそれぞれの事業に該当する「部門別」に収支計算書を作成することをお勧めします。これにより事業別・部門別の損益が常に把握でき、まさしくクラブ事業の財務分析が可能となります。



その為には市販の会計ソフトを活用するとか税理士と顧問契約を結ぶことが有効で、実務としては定期的なインプット作業が必要となりますが、多様な財源の確保に必要なそれぞれ個別の事業別にその達成度を客観的に把握できる指標となり、クラブの自立・自律に向けた成長戦略に係る具体的な数値目標の策定に繋がりますので是非ご検討下さい。

また、この目標達成に向けた業務遂行には「PDCAサイクル」を活用して下さい。クラブの課題や将来展望を考慮した実現可能な計画（P）の策定とその実行（D）、定期的かつ継続的な評価・検証（C）とその改善（A）に挑戦して下さい。

尚、「事業別・部門別・収支計算書」の事例として具体的なデータを作成してありますので、ご一報いただければクラブアドバイザーが訪問し活用方法を説明いたします。このように収支計算書の財務分析を経営指標に活用して頂き、自立・自律に向けた積極的なクラブマネジメントを期待しています。